2024 年度事業報告

当協会は演劇の普及と演劇に関する助成によって、文化の向上に寄与することを目的として活動する助成事業（演劇関係者への助成金交付、海外研修、脚本家育成への助成）、普及事業（半額観劇会、演劇に関する講座開催）、調査事業、公益諸事業を行っています。2024 年度はこれらの事業の更なる公益性を図り、全ての事業に安全性を確認し取り組みました。

Ⅰ　助成事業

（１） 演劇関係者への助成金交付

演劇興行及び演劇製作に寄与した団体または個人の功績を讃え表彰する助成金交付事業は、内外の推薦を募り外部委員を含めた選考委員会が審査選考し、候補者を決定。常務理事に報告、審査の上会長に答申し承認します。2024 年度は下記の 5 名が承認されました。授賞式は 2 月 20 日（木）、東京プリンスホテルで行いました定時理事会終了後、理事会出席の理事、監事及び委員会出席者の立会いの下、安孫子会長より 5 名の授賞者に賞状と助成金を贈呈しました。

（受賞者と授賞理由）

中嶋　正留氏（ナカジマ　マサル）　1963 年 3 月生　61 歳
舞台美術家

1986 年伊藤熹朔門下で父である中嶋八郎氏の兄弟子、織田音也氏に師事。
その後、長谷川勘兵衛氏に師事し、歌舞伎を始め演劇全般の舞台美術を習得。
古典歌舞伎を始め、新作歌舞伎、新派、新劇等多くのジャンルに活躍。
中嶋氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

堅田　喜三代氏（カタダ　キサヨ）本名　木戸綾子 1965 年 6 月生　59 歳
劇団新派邦楽部　邦楽囃子方

邦楽演奏家の家に生まれ本人も東京藝大在学中に新派公演に参加。
四世堅田喜三郎氏、また父である堅田喜代蔵氏に師事、1987 年堅田喜三代を名乗る。
長唄、三味線、日舞、能楽大鼓を習得。新派公演は勿論の事、商業演劇、小劇場、テレビ等、様々な邦楽に携わると共に、邦楽演奏や演奏指導、作曲に精力的に活躍。
堅田氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

小林　香氏　（コバヤシ　カオリ）　1977 年 8 月生　46 歳

2000 年大学卒業後、演出家・振付家である謝珠栄氏(シャタマエ)に師事。
2002 年東宝株式会社に専属契約として入社、シアタークリエのオープニング公演でプロデューサーとして活躍。2008 年東宝株式会社退職後、舞台演出家として独立。
大劇場から小劇場、テーマパークのショーの作・演出を手掛ける。
大学の客員教授として後輩の指導も手掛ける。
小林氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

G2 氏（ジーツー）　　1959 年　65 歳
劇作家・舞台演出家

1987 年演劇ユニット「売名行為」で演出家デビュー。
1995 年演劇ユニット「G2 プロデュース」を主宰、既存の劇場との共同製作で活躍の場を広げた。2013 年「Ｇ２プロデュース」を解散、劇作家・演出家に専念。独自のコメディセンスを活かした舞台を中心に、名作ミュージカルや翻訳劇にも数多く携わると共に、人気コミックの戯曲をミュージカルや新作歌舞伎に生み出す能力も高く評価される。
G2 氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

西田　豊子氏（ニシダ　トヨコ）本名下山　豊子　1948 年 9 月生　75 歳
劇作・演出・演劇教育

1970 年劇団東京芸術座文学部入団。1979 年劇団青芸結成に参加し、2003 年劇団解散まで劇作家、演出家として活動。2000 年表現教育研究所を発足。その後 NPO 法人アートインライフを設立、2004 年 NPO 法人アートイン Asibina を設立。理事長として活動しながら劇作家・演出家として創作活動を行う。“芸術によって、舞台と客席・地域と人・人と人・芸術と人が響き合い、あそびの場所が生まれることを目指す”とのコンセプトの下、精力的に活動されている。西田氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての受賞。

(2) 海外研修への助成

1989 年に発足した海外研修は、研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となると考えております。海外の演劇、特にミュージカル公演は盛況であり、本場のニューヨーク、ロンドンの舞台を研究したいという強い要望が多く寄せられています。

また昨今海外の演劇祭が活況を呈しており、その研究に取り組みたいとの要望も強く出てきております。2020 年度から 2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、本事業の執行を取りやめていましたが、2023 年度から事業を再開しました。

2024 年度は 10 名が参加し､2024 年度末の参加者総数は 571 名となりました。 尚、2024 年度の参加申請者は 14 名で、法人会員から 2 名、外部委員 1 名、事務局 1 名で選考委員会を開催、協会の海外研修助成に関する規則に則り候補者を選考、常務理事に報告し事業担当理事が承認。会長に報告の上参加者を決定しました。

2024 年度参加者は

久保田毬子、城戸　芳、吉森久美、金井真由、野口康太郎、衛藤　蘭、鈴木里咲、古川綾子、三谷るみ、佐川芽生、　以上 10 名

(3) 脚本家育成への助成（脚本募集及び脚本家養成講座）

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要と考えられます。

脚本募集につきましては、2024 年度は 2023 年度に「第九回脚本募集」を行いました分を審査し、入選作品を決定いたしました。その表彰式は本日の定時理事会終了後行います。

応募状況ですが　総数 65 本　内訳は歌舞伎部門 25 本、ミュージカル部門 8 本、現代劇部門 23 本、時代劇部門 9 本となります。

入選作品は

最優秀作品　　該当作品なし

優秀作品

現代劇部門	松澤　理	『カッコウたちの夏−東京俘虜収容所北山分所−』

佳作

歌舞伎部門	宮本　知佳	『お雪政八あべこべ噺』
〃	宮本　知佳	『女鼠捕物帳』
ミュージカル部門	阿原乃里子	『草太郎の恋−お伽草子より−』
時代劇部門	松島美穂子	『大刀洗川の水は清く』

次に 2013 年度より「初級コース」「中級コース」「マスターコース」の 3 コース
でスタートしました「脚本家養成講座」ですが、2024 年度は
受講者数は､マスターコース　７名　中級コース　１１名　初級コース７名の　　計
25 名となりました。
2024 年度は「マスターコース」は第二土曜日、「初級コース」「中級コース」は第三土曜日に中央区の区民館を会場に開講しております。

Ⅱ　普及事業

（１）半額鑑賞会

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、
独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団
と本協会で共催している半額鑑賞会は低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。
2024 年度は
東京地区 4 回　大阪地区 7 回　名古屋地区 3 回　福岡地区 8 回　合計 22 回
の事業を実施することができました。

東京地区	4 回	30,057 人	221,601,750 円
大阪地区	7 回	57,275 人	352,285,250 円
名古屋地区	3 回	1,287 人	6,724,800 円
福岡地区	8 回	12,393 人	99,885,450 円
合計	22 回	101,012 人	680,497,250 円

（税込､観劇料金×販売枚数､公演中止による減額は含まず）

また、2025 年 4 月時点、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。
また、独立行政法人日本芸術文化振興会と普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

（２）学生対象の演劇教室

観劇と組み合わせた演劇教室の開催。学生を対象とした若年層への演劇の普及を目的とする本事業につきまして 2024 年度は、8 月観世能楽堂の“親子で観よう！能の世界”を観世会と共催、９月南座の「九月花形歌舞伎、あらしのよるに」の 2 作品を行いました。

両公演とも初めて観劇する学生、生徒、児童が多く、７月の”親子で観よう!能の世界”では開演前にワークショップを行い、参加者に実際に体験できる時間を作り、多くの興味を惹く内容であった。また９月の「あらしのよるに」の公演では、開演前に別会場で、歌舞伎の魅力や見どころ、またこれから観劇する作品のお話し等を参加者が興味を抱くよう解説していました。

参加者は観世能楽堂　323 名　南座　100 名　となりました。

Ⅲ．会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、66 号、67 号を発行いたしました。

会報は当協会会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしております。

Ⅳ　調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟 52 劇場で実施された一年を通したボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の 17 の準会員劇場の主要事項を内容としている[Box Office Data Report] の翻訳、編集。

ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテイメント市場調査報告書」の調査、編集。

ぴあ株式会社との「ライブエンターテイメント市場調査報告書」は進めることが出来ましたが、ロンドン劇場協会の「Box Office Data Report」につきましては、2019 年版以降ロンドン劇場協会が今もって発行出来なく、事業展開を行うことが出来ませんでした。今後情報を取りながら、資料の分断をすることなく事業展開をいたします。

また新たに、2024 年度は当協会も構成団体として加盟している、劇場等演出空間運用基準協議会が発行する“「舞台技術の共通基礎」公演に携わるすべての人々に改訂版 2025“の出版に協力しました。

2024年度事業報告の附属明細書

定款第38条第1項第2号に定める事業報告の附属明細書につきましては、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため本年度は作成しておりません。

以上